

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミⅡ	チーム名	小山ジャパン
タイトル	コロナ禍における大学の在り方		
テーマ群	C) 公共経済		
メンバー			
研究計画内容	<p>【研究背景】 テーマの背景 2020年、新型コロナウイルスの影響により全世界の教育機関が著しい打撃を与えられた。なかでも、大学はその特徴的な形態からクラスターの発生率が非常に高くなった。また、そういった問題が発生すると、メディアは大学名を出して報道するため、大学側は行動を慎重にならざるを得なかったのが、現状であり、それはいまでも現在進行形でおこっている。私たち大学生はそれらの影響の垂直下にあり、望んでいた教育を受けられないことや、学費の免除などの救済処置が充実していないこともあって、大学や休学を余儀なくされている。そのような背景から私たちは、このようなテーマで研究を進めることにした。</p> <p>【研究内容】 新型コロナウイルス感染拡大により、大学の救済措置の甘さや自然災害による休学であるのにもかかわらず、授業費が変わらないという問題が挙げられる。授業の質が下がっていない為に、学費を下げないというのは論点がずれているのではないか。</p> <p>[仮説]: コロナにより学生の休学や退学が去年より大幅に増加しているのではないか。また、大学の対応策は本当に正しかったのか。ネットやアンケートで調査を行うことで、現状を理解する。</p> <p>始めに、他の大学の現状を産近甲龍や関関同立など身近な大学を対象に調査する。次に、実際に国がとっている対策などの調査。さらにこの国の対策をどれほど生徒が理解しているかなどのアンケートを実施し明らかにしていく。</p> <p>[解決策]: 上記のことから、すべての情報が公開されるのではないかと考える。</p>		